

「ホリフトウォーター」のご紹介



宮崎エンジニアリング株式会社

災害拠点の 応急給水活動



災害用組み立て式給水タンク 「ホリフトウォーター」

【開発コンセプト】

- ◆災害時に飲料水を円滑に給水できる
- ◆折り畳み式でコンパクトに保管できる
- ◆大容量の水がトラック輸送できる

保管



組立前



組立後（完成品）



移動



仮設給水所



自治体・病院・企業から選ばれる理由

6つの
強み

円滑な給水

給水車から3分で1トンの水を
移す事ができる
★給水車の回転効率が向上

組み立て式

工具不要、
2名で約5分で組立
★仮設水槽が簡単にできる

大容量

貯水量:1,000L
★保水したまま車移動が可能

軽量・省スペース

スペース効率の良い保管
寸法:W/D1,137mm×H230mm
★各避難所で保管が可能

衛生的

中袋が交換でき衛生的
(食品衛生法適合品)
★中袋の対応年数・約10年

便利な蛇口

水勢が違う2つの蛇口
(ペットボトルとタンク用)
★スムーズな給水

「ホリフトウォーター」 【導入効果】

避難所、福祉施設、近隣企業等に設置し施設内における給水確保及び避難所運営の安定化を図る

円滑な給水

給水車から3分で1トンの水を
移す事ができる

★給水車の回転効率が向上

住民の混雑緩和

給水タンク数の増加
給水待ち時間の軽減

★住民負担の解消

簡易給水車

保水した状態でトラック等に
積載し移動が可能

★移動給水車としての活用

【コンパクトな保管、短時間の組立設置】

本製品は、組立式でコンパクトに保管できます

組立は工具不要、2名で約5分で可能です

★飲料水対応として、中袋の対応年数は約10年です

国土強靱化計画 民間事例集に掲載

国土強靱化

顧客を守る！ ▶ 顧客の生活を支える ▶ レジリエンスに特化した商品やサービスをつくる

018 折り畳み式災害用給水タンク「ホリフトウォーター」の開発

取組主体
堀富商工株式会社

従業員数	被災災害	実施地域
85人	全般	全国・ウクライナ

東日本大震災での断水経験から、容量 1,000 リットルの折り畳み式給水タンクを開発し、災害時の給水活動の効率を高めることを可能にしている。

1 取組の概要

- 産業用の包装資材の開発と販売を行う堀富商工株式会社は、同社の持つ物流資材開発のノウハウを活用して、容量 1,000 リットルの災害用折り畳み式給水タンク「ホリフトウォーター」を開発した。「ホリフトウォーター」は、不要時にはコンパクトに折り畳み、必要になったら組み立てて水をため、付属の蛇口などから必要量を給水できる非常用のタンクで、生活用水、飲料水の両方の給水に利用することが可能である。
- あらかじめ避難所などに備蓄した「ホリフトウォーター」を活用することで、給水活動の効率を飛躍的に高めることができる。給水車から 1,000 リットルの給水タンクに水を移すスピードは 3 分程度であるので、給水車が各避難所を巡り、それぞれの給水タンクに順次水を移していくことで、短時間で給水ポイントを増やすことが可能となる。これにより、複数箇所で同時に多くの人が給水を受けることができる。
- 同社は、被災地現場へ実際に赴き「ホリフトウォーター」を設置する給水支援活動を、長年行っている（2016 年熊本地震、2024 年能登半島地震など）。この「ホリフトウォーター」は、そうした給水支援活動時に現場で必要とされる機能をヒアリングしながら、製品としての改善を繰り返し、現在の形となった。具体的な改善策としては、スピーディーな給水のために蛇口金具（配管）の内径を 2 倍にするなどの改良を行っている。
- 近年の日本は、地震だけでなく異常気象による豪雨などでも頻繁に断水が起きている状況であり、断水発生時には備蓄されている「ホリフトウォーター」が実際に活用される事例が多くなっている。能登半島地震の際も、「ホリフトウォーター」は被災地各所で給水活動に使用された。

2 取組のきっかけと想い

- 大阪に本社を構える同社は、BCP（事業継続計画）対策および取引先へのスピーディーな供給を目的として、福島県にも製造本部生産拠点を開設していたが、東日本大震災で同拠点が被災した。震災発生直後は水道、ガス、電気が全て停止したが、特に水道の復旧には最も時間を要し、地域全体での復旧には約 1 か月を要した。水は生きていくために絶対不可欠なライフラインであり、飲料水としてだけでなく、衛生面においても極めて重要である。被災地では水が不足すると生活が著しく困難になることを痛感した。
- この体験を機に、同社は従来取り扱っていた段積み可能な折り畳み式物流コンテナ「ホリフトシステム」を応用し、災害用折り畳み式給水タンク「ホリフトウォーター」の開発を開始し、被災地での給水環境改善を目指した。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

軽量コンパクトな設計

- 折り畳み式であり、備蓄時に多くのスペースを必要としない。また、シンプルな構造のため、組立てが非常に簡単であり、2 人で 5 分程度で組み立てることができる。

衛生的な構造

- 組み立てるまでタンク内側が密閉され外気に触れない構造になっているため、清潔な状態が保たれ衛生的である。

国土強靱化

高い耐久性と機動性

- シンプルな構造の折り畳み式であるにもかかわらず、満水状態でトラックの荷台に積んで輸送可能な強度を持つ。これにより、簡易給水車としての利用も可能となり、より機動力のある給水活動が実現する。




組立ての様子簡易給水車としての利用

4 取組の効果

能登半島地震における支援

- 能登半島地震においては石川県羽咋市（はくいし）の要請により「ホリフトウォーター」3 台を羽咋市すこやかセンターに設置した。3 台で 3,000 リットルの水を効率的に給水することが可能となり、同センターは給水所として活用された。
- 同様に、石川県七尾市においても中島中学校・中島地区コミュニティセンターに 2 台を設置し、近隣の方々に給水所としてご利用いただいた。

国内外での導入実績

- 近年では、各自治体の防災計画に基づき、いざというときの備えとして各避難所に「ホリフトウォーター」を備蓄するケースが増えている。さらに、国内での長年にわたる給水支援活動や自治体での採用実績が実を結び、2023 年には日本政府のウクライナ支援物資の一つとして採用された。実際の給水活動に使用している状況も報告されており、初めて現物を見る現地の方々のウクライナの方々でも簡単に組み立てることができたという。また、軽量で運びやすかった点も評価された。

利用者の声

- 「トイレを流したり、作業後にドロドロのブーツの底を洗ったりする際に、ペットボトルの水を利用して流すのはどうしてももったいないと思ってしまい抵抗感があった。その点、大きな 1,000 リットルのタンクで水を運んでいただければと、生活用水としても気兼ねなく使うことができて非常に助かる」（利用者）

取組者の声

- 被災地での状況を実際に見るたびに、災害が起きてから動くのでは遅いと毎回感じます。能登半島地震における給水活動でも、備蓄している給水タンクの数が少なかったため、近隣の県で備蓄しているタンクを救援物資として急ぎ被災地に送るというケースが散見されました。事前に被災地に必要数の給水タンクが備蓄されていれば、よりスピーディーな給水活動が可能だったはず。災害時における給水タンクの備えは非常に大切であることを伝え続けていきたいと思っています。

問合せ先	動画	サイト URL
堀富商工株式会社 法人番号：1120101006701 電話番号：072-241-3821 FAX：072-241-3822		

東京都水道局の災害対策に掲載

東京都水道局の災害対策

断水時に水を配る場所「災害時給水ステーション」

02 給水

災害等で断水したときは、災害時給水ステーションで水をお配りします。
いざというときに備え、日頃から、お住まいの近くのステーションを確認しておきましょう。



災害時給水ステーションにお越しの際のお願い

災害時給水ステーションにお越しの際は、水を入れる清潔な容器（ポリタンク等）と、それを運ぶためのカートやリュック等をお持ちください。背負えるタイプの給水袋も便利です。
左は、水道施設や応急給水槽に掲示している災害時給水ステーションのシンボルマークです。
開設時には、右のイラストのように黄色いのぼりを立てるので、お越しの際の目印にしてください。



■給水拠点（水道施設や応急給水槽）

- 水道施設である浄水場や給水所のほか、公園や都立学校の校庭の下に水を貯めておく応急給水槽など、都内213箇所（概ね半径2 km内に1箇所）に、災害時給水ステーションを開設します。
- 応急給水活動は、東京都水道局と区市町等が協力して行います。



水道施設と応急給水槽合わせて、都民（約1400万人）の約3週間分以上に相当する飲料水を確保しています。
※1人1日当たり3リットルで計算した場合

■避難所等

- 給水拠点での応急給水を補完するために、避難所に設置された応急給水栓（避難所応急給水栓）や、避難所付近のあらかじめ指定した消火栓等を用いて、災害時給水ステーションを開設します。
- また、区市町により設置された仮設水槽に、給水車等で水を補給して開設することもあります。
- 応急給水活動は区市町が行います。



←避難所応急給水栓



←消火栓からの応急給水

ホリフトウオターの活用事例

「仮設水槽」

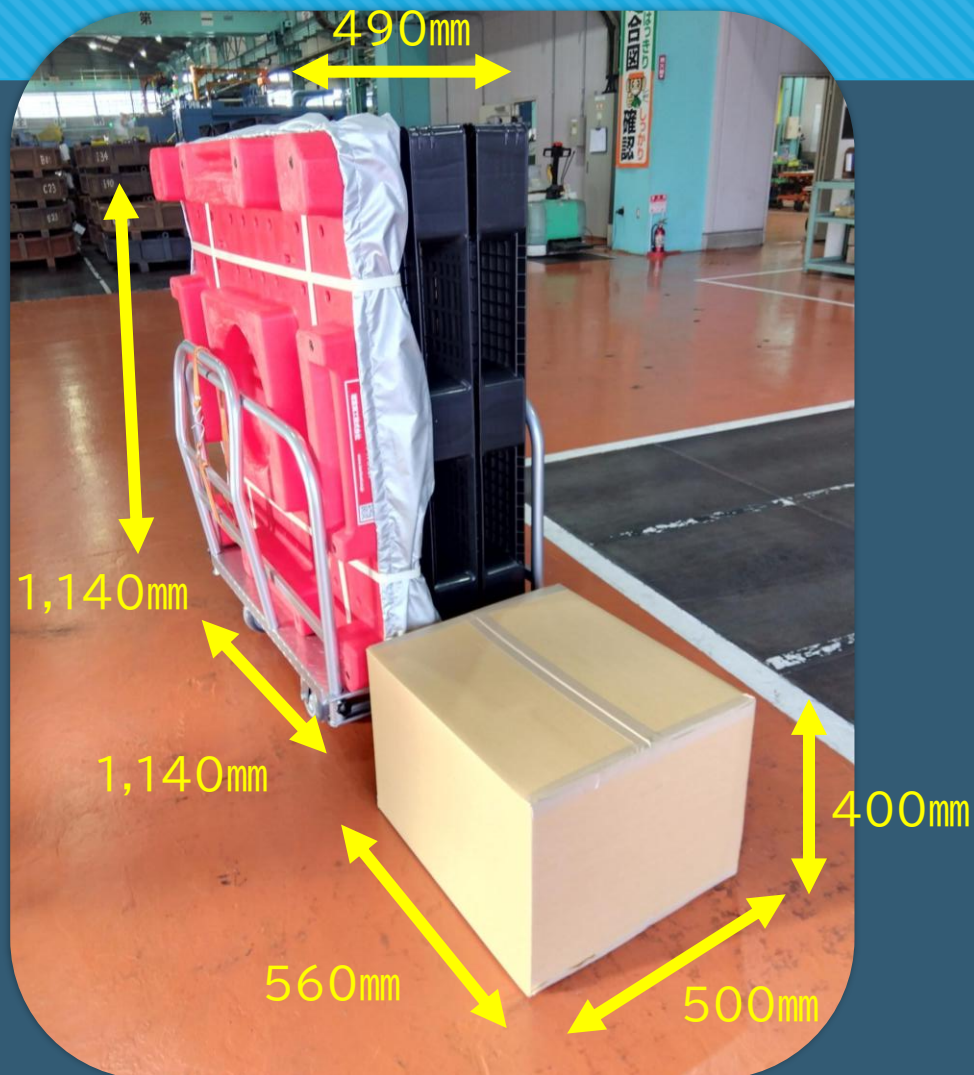
応急給水槽の仕組み

- 応急給水槽は水道管とつながっており、水が入れ替わる仕組みとなっているので、常に新鮮な水が供給されています。
- 地震や災害などが起きたときは、水の出入りを止め、貯留された水により応急給水を行います。



←仮設水槽からの応急給水

保管状態（収納時の大きさ、数量）



- ① 架台用パレット(2枚)
- ② 本体セット
天・底パレット・
スプール製ポール 他
- ③ 付属品
外袋・内袋
自在水栓2栓 他

組み立て方



STEP 1

板パレットの上に
本体を載せます。

STEP 2

フタを外し、
ポールを組み立てます。

STEP 3

外袋を設置します。

STEP 4

最初に外したフタを
外袋の上からかぶせます。

STEP 5

内袋に必要な
部品を取り付け、
外袋の中にセットします。

STEP 6

水栓を取り付けて
組み立て完了です。

製品仕様

組立時の寸法（目安mm）	W（1,140）× D（1,140）× H（1,110）
収納時の寸法（目安mm）	W（1,140）× D（1,140）× H（250）
本体材質	折り畳み式フレーム + 内外装
設置形態	折り畳み式
重量（目安）	50kg
架台対応（mm）	パレット2枚 高さ：約240
有効内容量（L）	1,000
給水方法	二連水栓（盗難防止用鍵付き）



「ホリフトウオーター」 組み立て実演します お気軽にお電話ください

☎090-9839-3101(キヌカワまで)



社名	宮崎エンジニアリング株式会社
所在地	名古屋市中川区丸米町二丁目38番地
代表者	代表取締役社長 犬伏 邦夫
設立	1974年(昭和49年)8月
資本金	4,200万円
従業員	13名
営業品目	・鉄鋼棒線二次加工設備などの設計・製作・販売 ・エアー漏れ診断、電動式バンド掛け梱包機・組立式給水タンク 廃フレコン専用圧縮機の製造販売
関連企業	宮崎精鋼株式会社 (弊社は宮崎グループの一員です)